

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの立場を地域の中で明確化、確率へと導く為に利用者との関係をより深めるよう、またそのことを土台とする理念を作り上げている。	○	理念を具体的に介護に結びつけていけるように、定期的に理念を内容の再確認していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理念としてだけとらえず、日々の介護に結びつけ、実践していくように、ミーティング時に話をし意識の統一をはかっています。ミーティングの機会を増やし、そのミーティングの内容をノートやボードに記録し、いつでも確認できるようにしています。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人に向けてパンフレット等を作成し、理念や理念に基づいた取り組みをいつでもできるようにしている。定期的にパンフレットを改正し理念が具体化できているか確認しています。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	リハビリに病院に行くときに、病院で会った人たちとも話をしたり、声かけをしてもらったりしています。	○	外出の機会を増やし利用者と地域の人たちのふれあいをもっと密にしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の小学生が来てくれてレクリエーションをしてくれており、利用者との交流を深めています。	○	子供たちとの交流だけでなく、大人(高齢者など)との交流の機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に実習生を受け入れて、介護の指導をおこなっています。地域の老人会や勉強会に参加できるように新聞や広告等に目を向けて、情報収集しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちの介護がどのように評価されているのかを確認する意味で、定期的なミーティングを密にして、介護計画の具体的な改善を話し合い、日々取り組んでいる。自己評価と外部評価の差を確認し、さらに質の高い介護に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在取り組んでいる内容を役員に報告し、意見をもらい、改善すべき内容は、職員全員で話し合い、実践している。会議の内容を記録し、職員は、いつでも確認できて実践し、再評価できる状態にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当との連絡を取り合い、ケアサービスの内容を確認報告している。	○	事業所と市町村との連絡、改善内容が各職員に徹底されるように、情報交換の機会やシステムを作り上げていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者や家族等に権利擁護に関する制度について定期的に提供できています。	○	職員への勉強会を開き権利擁護に関する制度についてさらに理解していきたい。研修等にも積極的に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者や家族等にミーティングをおこない、虐待についての知識を深めて、常に虐待につながるような行為が行われていないかどうかをチェックしている。職員間で情報交換を行い、職員間で、虐待につながる行為が行われていないかどうか徹底チェックし、見過ごされていることのないように注意をはかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、疑問点に関しての対応を担当の職員が時間をかけて説明を行い契約の手続きを行っています。家族の不安や疑問がなくなるように何度でも説明や話し合いの機会をもうけて同意をえられるように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置し、いつでも気軽に意見を出しやすいように働きかけている。利用者の苦情等を職員全員で話し合い、特定の職員の中に埋もれないようにしています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身の状況で明らかかな何らかの変化が起きた際にだけでなく、気になる点があれば、随時報告をおこなっている。利用写真(参加した行事以外でも)を日々にくらしぶりがわかるものを玄関横にかざっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的にもうけて意見を出せるような場を作っている	○	苦情への対応で終わるのではなく、その発生の要因を探り、課題を検討して質の向上をはかって、目指す取り組みをしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、職員から提案があれば取り入れるようにしています。しかし、職員の運営に関する意見を聞く機会を特別に作っていることはない。	○	意見を聞く機会を会議形式で作ったり、座談会のような場を作りたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に応えるようにつとめてはいるが、特に要望はないようです。	○	利用者や家族の意見を聞く機会を作るようにしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	あまり職員の入れ替えはないようにつとめています。	○	今後もなじみの関係を作っていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に係わる研修に対しては、参加できるように配慮しています。	○ 法人内での研修は、今後の課題です。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者、医師会等にて、交流しています。	○ 管理者、職員が、地域の同業者との交流や勉強会、交流会を今後行い、質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者のストレスや職員のストレスの軽減の為に環境や工夫に取り組まれている。	○ 今後も環境などの配慮を今以上に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績に目を向けるようつとめている。	○ 今後も、向上心をもって働けるようにつとめている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者のおかれている状況を理解し、話し合いの機会を設け、利用者との信頼関係を築けるようにつとめている。利用者の不安や思いを職員全員で受け止め安心してもらえるようにつとめている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の即時的なニーズを探り、利用者のニーズを考慮して、話し合いの機会を設けて実践につなげている。できるだけ相手のニーズを理解し、施設でできることを話合う機会を多くもつて、信頼関係に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手のニーズに対しできることはすぐに対応できる。できないことに関しては話し合いを行い解決できるようにつとめている。	○	ニーズを予測(可能な限り)できるように施設内で話し合いをおこない、対応をあらかじめ決めておく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の訪問等をいつでも受け入れて、介護等の見学をしてもらって、本人、家族が納得、安心感を持ってもらうようにしている。本人が使用していた家具等を持ち込み安心できる空間を作っている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とともに暮らす同士として、喜怒哀楽を利用者の思いと共感し、理解できるように、利用者 と接する機会を増やしている。利用者の得意な分野や能力を生かす機会を増やし、利用者を支援される側という一方的な関係にならないように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見に耳を傾けたり、家族との情報交換を(本人の自宅での暮らしぶりや家族の介助方法など)行い、自宅と施設での生活を一連の流れを守るように協力関係の構築に努めている。家族からの情報を一個人の職員だけにとどめず、ミーティング等を重ね、全職員が同じ情報を共有できるようにつとめている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との利用者の思いを受け止め、両者の思いが一致するような働きかけをしている。	○	利用者と家族の間で手紙のやりとりなどをして関係をとぎれないように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活習慣を尊重していけるように、知人友人等の連絡をとりつぐなどして、外部とのつながりが継続できるように支援している。昔なじみの美容院に行ったり行きつけの店に買い物に行ったり本人をとりまく環境がとぎれないようにつとめている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しないように、利用者同士の人間関係を理解し、席順や声かけ等に配慮している。日々の暮らしの中で職員も多くの会話がもてるように心がけ、円滑な人間関係が保てるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了しても、地域住民として施設に訪問してもらったり、職員が同行して会いに行くなどして、継続的にフォローをしている。施設の行事に招待したり、遊びに来てもらうように心がけている。家族からの相談も受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうか?」という視点に立って、ミーティングを重ね、介護につなげるように努めている。本人の真のニーズを理解するために、利用者の態度から、本人を支える為に必要なことを読み取る努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮をしつつ、本人や家族の思いにそった介護に努める。	○	利用者本人や関係者から情報を聞き取り、まとめて真のニーズを導き出すようにつとめる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間が個別に有す情報をミーティング等で総合的なものにした上で、暮らしの中で発見できるか、等を発見することにつとめている。	○	出来ないことを出来ることに着目して、利用者の一人ひとりのリズムを理解していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、担当者での会議を行っている	○	介護の計画に今後も反映して行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヶ月に一度、急激な変化があれば、随時新たな計画を作成している。	○	家族との話し合いが少ないように思われる。これからは、家族の連絡を今以上にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を作成し、個人の情報や職員の気づき等をすぐわかるようにしている。出勤時に、申し送りノートの確認を義務づけている。個別にファイルを作成し、身体機能、ADL等をチェックしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況や要望に応えるように柔軟に支援をしている。しかし、家族の状況や要望をこちらから、聞く努力があまりできていません。	○	入居者の家族の要求をよく聞く体制を考える。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営会議等に参加して頂いています。また、広く知って頂けるように、町内の民生委員の方にパンフレットを送りました。	○	民生委員の方との交流ができるような体制を考える。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネとの交流はまだありません。藍住町内の支援事業者や近隣の町内の支援事業所にパンフレットを配布しています。	○	他のサービスの活用ができるようにケアマネとの交流を親密にしていくように心がける。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、長期的なケアマネジメントや権利擁護などのことについて、地域包括とは協働していません。運営会議には参加しています。	○	権利擁護や長期的なケアについてのアドバイスをいただけるような体制を作れるようにしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	森本医院にて、定期的リハビリや治療を行い、その際職員が通院の介助を行っている。複数の医療機関を利用している方は、複数の医療機関と連携し入所者が入院できる病院を確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの医療機関があり適切な指示や助言をうけ迅速な対応や治療を可能にしている。	○	行政や地域の医療機関関係者の支援を得ながら、今以上によりよい対応ができるようにつとめていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	森本医院より、看護師を配置しており常に利用者の健康状態の管理や状況変化に応じた支援を行えるようにしている。夜間は、看護職員と介護職員とはいつでも相談連絡できるようにしている。些細な変化でも、介護記録に記入、看護師に報告するように徹底し、看護師も利用者の状態を把握できるようにつとめている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の細かな情報(介護職員が知り得た情報)を医療機関関係者に伝え、医療機関内の混乱を防ぐようにしている。入院中は頻繁にみまいに行くようにし、その際、医療関係者と情報交換を行い、施設内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族との思いの変化に応じて、事業所とともに繰り返し話し合いを行い本人と家族の安心と納得が得られるようにしている。	○	早期から話し合いの機会を作り、方針や支援の具体的内容を検討し、関係者全体の方針の統一を図っていくようにしていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向をふまえ重度や終末期の利用者を支えるためにチームの連携、職員の力量諸条件を備え、他の利用者への影響を考慮して対応している。医療機関とともに密に連携を図り、急変した場合でもすぐに対応できるようにつとめている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージが最小になるようにアセスメント、ケアプランや支援状況等を他の事業所に伝え、くらしのケアの継続が保たれるようにつとめている。	○	利用者及び家族の意見をふまえた上で、移住先の生活環境や介護の継続性に配慮し必要な援助を行うよう努めていく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の誘導時の声かけを目立たず、さりげなく言葉かけするよう対応している。職員すべてが、個人情報と話さないことを徹底して、一人ひとりの尊厳を重視した介護を行っている。個人情報の扱いの重要性をミーティング時にも注意して職員間で通常に話して徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と過ごす時間を通じて希望、関心、嗜好を見極め、職員が押しつけるようにせず本人が選びやすい場面を心がけている。	○ 利用者との親密な関係を通じて、本人の希望や関心から支援できるように取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは、持っているが、買い物散歩や職員との心ゆくまでのおしゃべりを楽しむこと等、利用者のスペースに沿って見守り、できるだけ個別性のある支援を行っている。	○ 職員の都合に合わせたような介助や支援にならないように、利用者本位の介護に心がけるように取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせた支援を心がけ馴染みの関係のある美容院に入ったり朝の着替えの見守り支援を心がけている。職員も個人の個性ある服に自己表現できるように心がけています。	○ 身だしなみも各一人ひとりに配慮した、そして高齢者であっても若々しく見えるようなその人らしい清潔な服装や気遣いに取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みやにがてなものを踏まえたメニューを工夫して畑でとれた野菜や家族から持ってきて頂いたものを使って季節感のあるメニューに配慮しています。	○ 季節の行事や季節の旬の物を食事に生かす取り組みをしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が持ってきたおやつなど、食べてもらっている。一人ひとりの好みや意向を大切にするとともにそれを好まない周囲の利用者の配慮と本人との調整を行うようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのサインを全職員が把握して、さりげなく支援している。排泄チェック表を使用し利用者の時間や習慣を把握しトイレでの排泄ができるようにしている。オムツを使用している利用者の排泄のパターンを把握して、トイレ誘導をするように心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に健康状態をチェックし、週3回の入浴支援を行っています。言葉かけの工夫や、チームプレイによって一人ひとりに合わせた入浴支援を工夫しています。利用者に恐怖心や負担感、抵抗感などを与えないように利用者を脅かさない入浴支援を心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の生活のリズムを作るのを心がけ、一人ひとりの体調を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。眠れない利用者については生活リズムの記録をもとに医師と相談して、薬剤等の調整に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野(洗濯たみ、草むしり、掃除)等の一人ひとりの力を発揮できること等をお願いし、利用者や相談しながら、おこなったり、感謝の言葉を常に伝えるようにしている。	○	職員が中心の楽しみや役割を利用者におしつけたりすることのないように職員間でチェックする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金をあずかり、外出時や喫茶店のお金は、自分で払って頂けるようにお金を手渡し、お金のある安心感や満足感に感謝している。	○	家族等と相談しながら利用者の力や希望にあわせて本人の金銭管理の支援に取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として散歩、買い物、ドライブにでかけ得れるようにしており、車椅子の方も積極的に屋外に出られるように心がけています。成長苑の庭で日光浴、近くの神社への散歩、スーパーへ買い物などに職員全員で協力しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠くの外出については、家族の協力に依頼、実現できるような方策を検討している。施設側から希望を出してもらうように働きかけ利用者や家族が希望をいやすくなる環境づくりを心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が私用できるように個別に支援しています。年賀状や手紙を通じて、家族や大切なひととの関係がとぎれないようにしている。利用者の習慣、希望、能力に応じてプライバシーに配慮しながら外部との交流を支援していくように心がけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族やなじみの人たちが会いたいときにいつでも自然に訪ねてくれる雰囲気をつくり配慮しています。職員はいつでも笑顔で訪問して下さる人に対応しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「どんなことがあっても拘束はしない」というケアの確認を日々の申し送りやミーティングで常に職員の共有認識をはかっている。身体拘束によるさまざまな弊害を理解し日々の介護の中で拘束が行われていないかどうかを職員間でチェックしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく配慮しさりげなく声かけをして、安全面に配慮し自由なくらしぶりを支えるようにしている。	○	外に出られないことによる心理的な不安感や閉塞感、家族や地域の人々にもたらず、印象を全職員が認識するようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員が利用者のみまもりしやすい位置にしておき、さりげなく全員の状況を把握するようにしている。夜間の巡視も含め、24時間利用者の安全に配慮している。	○	利用者のサインを察知して、本人の気持ちや状態にそった、安全でプライバシーに配慮したきめ細やかなケアを行うようにする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に管理方法を話し合い、決まった場所にかたづけしており利用者の危険を	○	物品や道具を全部取り除くのではなく、利用者の状態を把握しながら、危険を防ぐ方法を話し合うようにする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員間の共有認識をはかっている。万が一事故発生時には報告書を作成し、原因、予防について話し合い、家族への説明、報告を行っている。事故等を未然に防ぐ方策や利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険を検討し事故の防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員や母体の法人頼っており、すべての職員が危険な場で活かせる技術を身につけていかねばならない。	○	全ての職員が応急の処置の勉強を実施し体験、体得習得していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防管理の会社の協力を得て、消防の通報訓練や消火器の使用の仕方などの訓練を行っている。事業所間で災害等の対策に関する話し合いや具体的な支援体制の整備に取り組むようにつとめている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会などで、事業所の工夫や取り組み方針を工夫し、理解を得られるようにつとめている。起こりうるリスクを把握し個別に定期的な見直しを行い、家族等に対応策を説明するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の普段の状況を職員は把握しており常にバイタルチェックを行い、記録している。状況により医療受診を行っている。	○	変化や異常のサインに気づいたら、速やかに報告し、早期対応に結びつけるシステムを日常化できるようにつとめる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全員薬の内容を把握できるように服薬の個別のファイルを作成している。服薬時は本人に手渡しきちんと服用できるかの確認を行っている。家族や医療者に本人の経過や変化等の日常の記録を提供できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時には下剤や浣腸を使用しているがなるべく自然排便ができるように食事やおやつメニューを工夫し散歩などで身体を動かす機会を適度に設けている。下剤等を使用する際には本人の状態にあわせた使用量、頻度を理解して施行するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに手入れの必要性を全職員が理解しており、利用者の気持ちに配慮して見守り介助や入れ歯の管理手入れを支援している。利用者一人ひとりの習慣や行こうをふまえ利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。個々の嗜好を把握し献立に取り入れている。栄養のバランスの配慮にも取り組んでいる。カロリー不足や過剰、栄養の偏り、水分の不足が起こらないように職員全員が食に関する知識や意識を持つようになっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症について全職員で予防、対策に努めている。インフルエンザは全職員、入居者ともに予防接種している。季節や地域の感染症発生状況の情報収集につとめ、感染症の流行に随時対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	安全な食材を使用するため、毎日買い物に出かけ、買いためしないで冷蔵庫の食材の点検を頻繁に行っている。食中毒に関する勉強会を行い食中毒に関する知識を職員全員で理解し予防につとめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭でお茶が飲めるようテーブル、ベンチがあり玄関には季節感のある花を生けたりして、明るい雰囲気になるように演出している。利用者や家族、地域住人の視点に立って、バリアフリーを意識しつつ違和感や威圧感がないように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい家具の配置に心がけ、利用者が自分の家だという意識を高めてもらえるように空間づくりに工夫をして生活感や季節感のあるくらしの場を整えている。職員は自らの五感を生かすとともに、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら利用者にとって心地よいようなつとめている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にベンチとテーブルを置き、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士でくつろいでいけるスペースを作っている。利用者個々の変化、利用者同士の関係性に配慮して居場所づくりや環境作りに心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、自宅で使用していた物品を持ち込むことで環境の急激な変化による混乱を防ぎ本人が居心地よく過ごせるように工夫している。家族の写真を飾るなどにより、安心感をもってもらい、寂しさを防ぎ落ち着いて暮らせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を各部屋に設置し空気の清浄化に努めている。利用者の体温や発汗、体調に応じて職員がこまめに配慮している。トイレに防臭スプレー等を常備している。冷暖房に頼らず膝掛けや服の重ね着、などで自然の状態に近づけるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくして、歩行時の転倒予防に努めろうかに手すりを設置しており、歩行能力低下防止と安全につとめている。浴室内の段差を少なくしていく。洗濯場の物干し棒の高さを低くして利用者も使用できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の症状に応じて部屋割りを工夫している。トイレ等がわかるように掲示板を作っている。利用者一人ひとりが自室を把握できるようにドアに目印を付けるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭があり畑に植物を植えて利用者の目を楽しませたり、役割をもてるようにしている。季節の野菜を植えて、利用者に収穫の喜びを体験してもらうようにしている。		